

会 議 要 旨

会議の名称	平成30年度第1回川越市社会福祉審議会地域福祉専門分科会
開催日時	平成30年7月26日(木) 14時から16時10分まで
開催場所	川越市役所本庁舎 4階 4A会議室
出席者(委員)氏名(人数)	海沼委員、樋口委員、小高委員、岡田委員、荻野委員、猪鼻委員、稲葉委員、佐藤委員、矢部委員、芝波田委員、小笠原委員、村上委員、最首委員、橋本委員、松山委員(15名)
欠席者(委員)氏名(人数)	本間委員、原委員、藤倉委員(3名)
事務局職員氏名	市 : 福祉部長、参事兼福祉推進課長、福祉推進課職員 社協 : 事務局長、地域福祉課長、地域福祉課職員
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「みんなでつくる福祉のまち川越プラン」の進行管理について 4 その他 5 閉会
配布資料	資料1 基本方針に基づく平成29年度の取組と今後の課題 資料2 地区別福祉プラン(平成29年度)進捗状況 資料3 みんなでつくる福祉のまち川越プラン 平成29年度 評価シート 資料4 みんなでつくる福祉のまち川越プラン 平成29年度 地区別取組状況

議 事 の 経 過

事務局	<p>1 開会 会議の公開についての承認</p> <p>2 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 過半数の委員出席による会議の成立の報告 ● 稲葉会長挨拶
事務局	<p>3 議題 「みんなでつくる福祉のまち川越プラン」の進行管理について ○資料1・3に基づき、事務局より説明。 (質疑、意見等)</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域共生社会の実現に向けて我が事・丸ごとの地域づくりに関連する部分で、全市の部分の段階で、例えば多問題の家族への支援など、横断的に対応する仕組み、多職種協働などの仕組みはどうなっているのか。また、実務的にどう運営しているのか。 コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修によって、住民の地区ごとの支え合いに専門職がどう連携して支援をしていくのか。
事務局	<p>⇒本市における包括的な相談支援体制については、総合相談窓口として1つの窓口で相談支援を行う方法やの複数の窓口が連携してチーム支援を行う方法など、様々な選択肢の中から本市において最適な相談支援体制についての検討を進めているところである。 コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修については、地域の方、福祉施設の職員など専門機関の方に参加してもらい、それぞれの活動などについて、お互いに理解を深めてもらっている状況である。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民だけで支えきれないものを、包括的な支援体制で支えていくことになる。その部分が現実に機能するように進めてもらいたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉法の改正により、地域福祉計画には、高齢、障害、児童その他の分野を含め、共通するところを盛り込まなければならなくなった。そういった分野を包括的に支援する窓口について最適なあり方を探しているということである。頭の中で最適なものと考えただけでなく、現実に機能するということを踏まえて最適なシステムを考えてもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料1 基本方針5のコミュニティソーシャルワーカーの配置に

事務局	<p>ついて、配置されている地区は、すべてを1名で担当しているのか、1地区を1名で担当するのか</p> <p>⇒現在コミュニティソーシャルワーカーは6名を配置している。今年度は全地区、22地区への配置としており、6名で22地区を担当するという状況である。</p>
委員	<p>●地域福祉推進のための活動拠点の整備の事業について、社協や地区社協だけでは難しい課題であるが、市の担当部署はないのか。</p>
事務局	<p>⇒社会福祉法の改正に関連して、行政として取り組むべき項目として、拠点の整備が求められていることから、市としても関わって推進していく必要があると考えている。</p>
委員	<p>●平成30年度はコミュニティソーシャルワーカーを全市に展開するということだが、計画の目標値である22地区を達成することか。</p>
事務局	<p>⇒拠点を設けない、アウトリーチ型での対応となるが、全地区にそれぞれ担当のコミュニティソーシャルワーカーを配置したということで、目標の22地区を達成したこととなる。</p>
委員	<p>●目標値と実績が数値で示されている事業については、年度ごとの目標値も数値で示してもらいたい。</p>
事務局	<p>⇒数値目標を掲げるべきものについては、きちんと示せるよう努めていきたい。</p>
委員	<p>●そのところをしっかりとやらないと、評価の際に目標値が決まるようなことになってしまうので、本来のPDCAの考え方から見ても、しっかりとやってもらいたい。</p>
委員	<p>●市のコミュニティソーシャルワーカーと介護保険の地域包括ケアの生活支援コーディネーターなどが縦割りになってはいけない。また、地域包括支援センターをどう活用していくかが重要である。拠点が必要なのであれば地域包括支援センターにどう付加価値を付けていくか。そういったことを考えていかなければいけないし、それを考えるためには地域包括ケア推進課なども巻き込んで横断的にし、無駄がないように進めてもらいたい。無駄が出てしまうと市民にきちんとサービスが届かない、機能しないということになる。地域包括支援センター体制があることを踏まえてどうあるべきか、きちんと考えてもらいたい。</p>
委員	<p>●和光市では、3圏域で、地域包括支援センターなどを拠点にししながら生活困窮や障害の問題を3圏域ごとに見ていき、全市的な部分に関しては市で総合的な仕組みを作っている。その上で川越市と同様に、地域福祉関係のコーディネーターが生活支援コーディネーターを兼務して柔軟に活動している。</p>

	<p>各分野では福祉サービスにつながったものを地域に戻していくことはできないし、地域での下支えの部分を計画に書きにくい。そういった部分は、地域福祉計画に盛り込んでいかなければならない。</p> <p>その上で、住民の課題については、地域福祉活動計画と連動させていく必要がある。</p> <p>そうしなければ、次期計画を進めるときに支障がでたり、本当の意味での住民への支援につながらない。</p>
議長	<p>●これまで進んでこなかった縦割りの部分について、政策的な動きが出てきた。それを踏まえて次期計画を考えてほしいということである。根本的な大きな課題なので行政と社協は時間をかけてでも進めていってほしい。</p>
委員	<p>●会長が毎年変わる地区社協もあり、引き継ぎは行われているのかもしれないが、それ以上は進んでいない。地区社協の取り組みというのは、どの程度、役員などに認識されているのか。</p>
事務局	<p>⇒地区によって状況が異なるが、毎年役員が変わることで引き継ぎがうまく行われないう話も聞く。民生委員などが繋がっていくことで、事業が継続されうまくいっている事例もあるので、地区担当による支援が重要であると考えている。</p>
事務局 委員	<p>○資料2・4に基づき、事務局より説明</p> <p>●福原地区では、小中学校区内の15の福祉事業者で福祉ネットワークを作り連携を図っている。年に4回ほど、自分たちの事業について紹介する講演会を開いている。</p> <p>昨年までに、福原の福祉事業者のエリアマップを作っており、今後はサロンや相談窓口を地図上に落とし込んでいく。</p> <p>社会福祉法の改正により病院や福祉施設なども様々な役割を担えるようになったことから、地域の中のセーフティーネットづくりという側面から地域福祉を考えていく必要がある。</p>
委員	<p>●地区懇談会に来ている方も、計画の基本方針すら知らないのではないか。自治会長や民生委員に計画を理解してもらえような場を設けてもらいたい。計画の見直しをしていく時期に入るので、基本方針だけでも徹底して説明してもらえると良い。</p>
事務局	<p>⇒計画の策定から時間が経っているし、これから見直しに入るといふこともあるので、改めて基本方針を説明するのは重要であるから、実施に向けて地域との調整を行いたい。</p>
委員	<p>●地区社協はどういう方で構成され、どういう組織なのかもわからない。</p> <p>各地区で計画の事業を実施しているか否かはどのような基準</p>

事務局	<p>によるものか。地区の中の一つの自治会しかやっていなくても良いのか。名細地区に住んでいても、家事支援サービスの話しを聞いたことがない。</p> <p>⇒地区社協の構成員は、自治会長や民生委員が多いが、ボランティアを構成員に入れているところなどもあり、地区の実情によって様々である。</p> <p>名細地区で現在の家事支援サービスは、1つの小学校区域、8自治会で実施しており、徐々に名細地区全体に広がっていくと思う。</p> <p>各地区で計画の事業を実施しているか否かの判断は、各地区の会長や役員が行っている。社協としては、実施というところに目を向けさせていただいている。</p>
委員	<p>●評価方法について、今回はじめて、経年の変化を見たが、実施の割合が増えている項目が7項目、減っているのが11項目、同じなのが9項目ある。評価として前年より後退したと捉えるのか。実施しているとの評価にブレがあるのか。</p>
事務局	<p>⇒実施の項目の数だけみると、後退しているという解釈ができる。そのあたりを自覚して、減ったところは課題としてとらえていかなければいけない。評価の方法についても周知して、経年の進捗管理が適切に行えるよう働きかけをしていく。</p>
委員	<p>●毎年一定の評価で見ていただいて、上がったのか下がったのかみる必要がある。今後は、評価のブレがないようにしてもらいたい。</p>
委員	<p>●地区社協の総会資料で事業報告などがあるが、それに基づいて評価されているわけではなく、会長が評価シート作っているということか。地区社協の会長の見方によって変わってくるということか。</p>
事務局 委員	<p>⇒総会資料とは別に、29年度の評価シートを作ってもらっている。</p> <p>●地区社協について、自治会長の変更などによって役員が変わってしまうところもあると思うが、全体としてはどうか。</p>
事務局	<p>⇒支会長が地区社協の会長をやっているのは、半分程度である。地区民児協の会長が地区社協の会長をやっているとか、前年の支会長がやるとか、地域によってまちまちである。</p>
委員	<p>●継続性の部分で、うまく図られるようにしてもらいたい。</p>
事務局	<p>⇒前任者との引継などについてお願いをしているところである。</p>
委員	<p>●地域の見守り活動について、特に障害者への見守りが不十分であると感じている。災害時に一番の弱者になると思うので、そういう人を漏らさない体制を考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>⇒災害時における地域の対応については、避難行動要援護者リス</p>

	<p>トが重要で、同意書の提出が必要であるが、お願いをしていきたい。</p>
事務局	<p>⇒障害者については、普段の生活を含め、情報をはじめとして何が不足していて、どういった支援を必要としているのかなどが理解されにくい。まずは啓発を行い、地域住民に理解を深めていただくことから始める必要があると考えている。</p>
議長	<p>●もちろん啓発も重要である。同時に見守りの仕組みの中でこぼれてしまう人をどのように支えていくのかという視点を持って考えてもらいたい。</p>
委員	<p>●地区社協事業の参加者数のところで、団体での参加はどのように捉えているのか。</p>
事務局	<p>⇒団体での参加についてもきちんと把握できるようにしていく。</p>
委員	<p>●地域における取組の地域ニーズに応じたサービスの創出で、創出されたサービスはどのようなものか。</p>
事務局	<p>⇒いもっこ体操（介護予防）が多かった。拠点や健康寿命の延伸、介護予防といったニーズに応えるものである。地域包括支援センターと協力しながら事業を行っている。また、有償の助け合い活動を開始した地区もある。</p>
	<p>バリアフリー・ハザードマップについては、住宅地図に要支援者の情報や地区内の危険箇所の情報を記入したものをもって事業の実施としているようである。</p>
委員	<p>●地域福祉計画が上位計画になるのだから、もっと推進していかなければならない。社協では、6人がコミュニティソーシャルワーカーとして、また生活支援コーディネーターとして活動しているということだが、6人で22地区を担当するというのは、本当にたいへんなことである。地域福祉は進めるという視点を持って体制を検討してもらいたい。アウトリーチで個別の支援に対応していくということである。個別の支援も大事だが、地域福祉の視点からは地域を面として捉えることが必要で、そのためには、もっと人数を増やすとか、経験のある職員を充てるとかしながら、地域課題を抽出して、それを行政レベルまで上げて行って、優先順位を付けられるような仕組み、システムを作ることが必要である。</p>
委員	<p>●多くの地区で民生委員の負担が大きいというのが課題となっている。福祉協力員の役割は重要だと思うが、何地区で、何人くらいいるのか。</p>
事務局	<p>⇒平成29年度4月1日に福祉協力員について補助金の要綱を作った。補助申請の状況としては、29年度は6地区、234人と把握している。補助申請はしていないが、福祉協力員が活動</p>

<p>委員</p> <p>委員</p>	<p>している地区もあるはずである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 19地区となっている。福祉協力員は大事なことなので、早急に推進してもらいたい。 ● 何が進んでいて、何が後退しているのかを見えるようにしてもらいたい。 <p style="text-align: right;">—以上—</p>
<p>事務局</p>	<p>4 その他</p> <p>計画上、平成31年度に中間評価を行うことになっており、中間評価から基礎調査を経て、次期計画へ向かうという流れになっている。ついては、今年度中に中間評価の方法についてご意見をいただくため第2回会議を開催したい。</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">〔16時10分終了〕</p>